

4 世界遺産登録後の白神山地周辺の現状について

鱈ヶ沢営林署 ○森林官 成田 敏
 " 田中正
 " 山田富夫

1. 始めに

当営林署管内は、青森県津軽半島七里長浜の南端に位置し、管轄町村は4町4村にわたり国有林野面積は23,777haである。

表-1 管内町村別国有林野面積 国有林野面積は、第1次施業管理計画書による面積 (単位 HA)

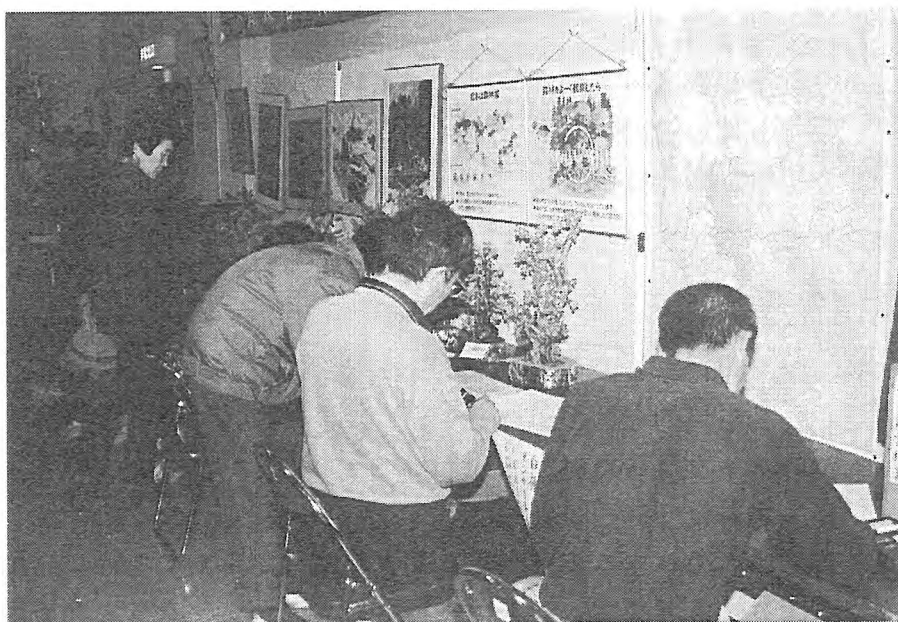
区分 \ 町村	鱈ヶ沢町	深浦町	木造町	車力村	森田村	稲垣村	鶴田町	柏村
人口	15,778	10,141	21,482	6,666	5,328	5,683	16,436	5,001
面積 (km ²)	342.83	315.28	120.07	62.15	24.05	33.18	46.40	14.23
国有林野面積 (HA)	17,875	4,889	326	669	18	—	—	—

産業的には、管内北部及び東部に位置する車力村・木造町・森田村・稲垣村・鶴田町・柏村は農業を主体とし、鱈ヶ沢町や南部に位置する深浦町では農林漁業という産業構図となっている。

2. 課題を取り上げた理由

当署管内南部に位置する白神山地は、平成5年12月9日コロンビアで開催された第17回世界遺産委員会において、屋久島と同時に世界自然遺産として登録された。

この事により、広くマスコミに取り上げられたことと、森林生態系保護地域設定の看板の表現を巡り、度々マスコミにより報道され



写-1 アンケート記入風景



写-2 入林制限の看板

ものである。調査の方法はアンケート調査と、実態調査である。アンケート調査は鱒ヶ沢町で行われた町民文化祭会場でのアンケートや、各森林官により各層にわたる地元住民に対しておこなった。また、実態調査は世界自然遺産登録前と登録後と比較するために、町役場・JR・警察署・消防署等に依頼して実施した。

〔実態調査・アンケートとも対象期間は5～11月の7ヶ月間とした〕

3. 実態調査結果

調査結果は表2から表7までのとおりであるが、まず町全体の観光客数は、5年度は若干落ち込んでいるものの、対前年比5～6%で増加している傾向が見られる。

また、人数は少ないものの5年度から、赤石川溪流・白神山地の増加率が際立って大きくなっているのがおわかりいただけるかと思う。

宿泊客については、町全体では少しずつ増加の状況にある。

白神を目的とした宿泊のデータはないが、従来であれば50～60人



写-3 ゴミの状況

程度のもので、5年度は450人程度はあったのではないかと聞いている。

入り込み者を最も顕著に表しているのが、タクシー利用客を調べたものである。世界遺産登録後初めての夏山を迎えた6年度は、爆発的な増加となっている。タクシー以外の公共交通機関はないので特に顕著に現れているものと思われる。また、東京の観光業

者が、地元のタクシー会社とタイアップして「白神ツアー」を実施しているのも大きな増加要因と思われる。JR鯉ヶ沢駅の乗降客数については増加は認められず、むしろ、減少傾向にある。

鯉ヶ沢警察署、消防署の調査では、心配された交通事故は0となっており、道路事情が整備の途中であることから、スピードを控えめに慎重な運転をしているドライバーが多いのではないかと推定される。

この調査結果で非常に残念に思われるのは、ゴミの量が増えていることである。年間2.0~2.5トンで推移していたものが、平成5年3.0トン6年3.5トンとなり、年間0.5トンというように驚くべき勢いで増加している。これは白神山地の中核部に延びる赤石川で実施されている「赤石川クリーン作戦」の成果だけであり、全体を考えれば相当な量に上るものと思われ、入林者のマナーの悪さがうかがえる。

表-2 鯉ヶ沢町観光客入込者調べ

(単位 千人)

区分 \ 年度	平成元	2	3	4	5	6	備考
町 全 体	5 5 3	5 8 9	6 2 0	6 5 8	6 4 5	未 集 計	
光信公の館	—	1 4	1 2	1 2	1 2	1 2	平成2年完成
くろくまの滝	3 5	4 5	3 6	5 0	5 1	5 4	
赤石川溪流	0.5	0.5	0.5	0.5	1	1	
白 神 山 地	0.1	0.1	0.5	0.5	1.0	1.2	

表-3 宿泊客調べ

(単位 人)

区分 \ 年度	平成元	2	3	4	5	6	備考
町 全 体	47,644	32,211	42,579	46,338	46,623	未 集 計	
白神目的の者	データとしてはない。役場の話としては、年間50~60人程度				450	未 集 計	

表-4 タクシー利用客調べ

(単位 台・人)

区分	年度	平成元	2	3	4	5	6	備 考
延べ通過台数		データとしてはない。 タクシー会社の話として 年間			4	6	100	6年度は旅行会社で、 白神ツアーを実施
延べ乗車人員数		2~3台	10~12人 位となっている		15	24	500	

表-5 JR 鯉ヶ沢駅乗降客調べ

(単位 千人)

区分	年度	平成元	2	3	4	5	6	備 考
鯉ヶ沢駅乗降客		392	376	336	330	329	300	

表-6 鯉ヶ沢警察署・消防署出動回数

(単位 回)

区分	年度	平成元	2	3	4	5	6	備 考
交 通 事 故		0	0	0	0	0	0	
遭 難		3	3	0	0	3	0	
救 急 車		0	1	0	0	1	0	

表-7 赤石川クリーン作戦結果

(単位 t)

区分	年度	平成元	2	3	4	5	6	備 考
ゴ ミ 量		2.0	2.5	2.5	2.5	3.0	3.5	

4. アンケート調査

- (1) アンケート調査は表8のとおり105人の協力を得る事が出来、内訳は男70人・女35人で年齢構成は表9のとおり41~50歳がもっとも多く31人で全体の30%、次いで51~60歳の21人で全体の20%となっている。

表-8 男女別 (単位 人)

男	70
女	35
計	105

表-9 年齢別 (単位 人)

~ 20 歳	21~ 30	31~ 40	41~ 50	51~ 60	61~ 70	71~
2	19	18	31	21	13	1

(2) 回答者の住所は、表10に見られるように地元鱒ヶ沢町が54人で全体の51%と最も多く、次いで隣町の深浦町が32%、県外も8%いる。

白神山地を、何で知ったかとの問いには、表11に見られるとおりテレビ・ラジオが圧倒的だった。世界自然遺産登録で、マスコミ各社が相当量の情報を流したことによるものと思われる。

表-10 市町村別回答者数 (単位 人)

鱒ヶ沢町	深浦町	木造町	五所川原市	前記以外の県内	県外	計
54	34	5	0	4	8	105

表-11 白神山地を何で知ったか [複数解答] (単位 人)

媒体	新聞	テレビ・ラジオ	本	その他
回答数	44	71	4	2

(3) 今まで、白神山地に行ったことがありますかとの問いには、55%が行ったと答え、何回行ったかでは1回が20%で一番多く、内訳は表12のとおりである。

なお、今回のアンケート調査では便宜上くろくまの滝から上流を白神山地として調査している。

表-12 白神山地入山回数

範囲	無し	1回	2~ 5	6~ 10	11以上	備考
回数	47	20	16	9	13	11回以上は工事関係者含む

(4) 行ったことがあると答えた58人に対して、回数及び時期について再質問した結果が表13である。集計した結果によれば登録前登録後にかかわらず、回数では1～5回・時期では秋が多く次いで春の入林者の多いことが分かる。



写-4 赤石川清流

表-13 入山回数及び時期

(単位 人)

	回数	延人	時期	回		回数	延人	時期	回
	登録前	0	5	春		28	登録後	0	3
	1～5	30	夏	17		1～5	30	夏	11
	6～10	10	秋	36		6～10	4	秋	18
	11以上	8	冬	1		11以上	3	冬	0

(5) 行き先別については、世界自然遺産登録前と登録後に分け調査したが、登録後というのは平成6年のデータである。

登録前が複数年のデータであることを考えれば、飛躍的に増加したことが読み取れる。

林野庁が指定した、森林生態系保護地域の全面積が、世界自然遺産に登録されたわけであるが、ご承知のとおり保護地域には保存地区と保全利用地区があり、現在のところ入林出来るのは保全利用地区までとなっている。

鱒ヶ沢営林署管内で保全利用地区に接していて、比較的容易に入林出来るのは、天狗岳(峠)・赤石ダム付近・櫛石山・二ツ森(秋田県境)等である。

くろくまの滝は、保全利用地区からは約1.5km下流にあり、日本の滝百選に入っている風光明媚なところである。登録前は赤石ダム付近が39%を占め最も入林の多いところであったが、登録後は、くろくまの滝付近が41%、赤石ダム付近が33%と

減少したのは6年度に入り赤石ダムに通じる奥赤石川林道が危険なため、一般車両を通行止めとした影響もあるかと思われる。ちなみに、林道閉鎖後、鋭前が頻繁に壊された。



写－5 保護地域標識

表－14 入山箇所別一覧表

(単位 回)

	登 録 前	登 録 後	備 考
くろくまの滝付近	18	16	
天狗岳(峠)	12	7	
赤石ダム付近	26	13	
二ツ森	1	1	
櫛石山	7	1	
その他	3	1	白神岳
計	67	39	

入林の目的は、山菜とり(茸を含む)72%・紅葉狩り15%・白神見学10%・魚釣り6%・ドライブ6%・その他18%となっている。その他と記入したものにピクニック、野草観察、写真撮影、仕事(道路工事等)がある。

圧倒的に山菜・きのことりが多いことがお分かりいただけると思う。

(6) 白神山地はどこが管理しているのかの質問には、林野庁71%・環境庁20%・青森県5%・文化庁2%・関係市町村2%という回答を得た。

また、白神山地を保護する制度についての問いには、複数回答ではありますが、森林生態系保護地域36%・自然環境保護地域10%・世界自然遺産登録地55%と、世界遺産のイメージが強く現れ、森林生態系保護地域として維持管理されていることがよく理解されていないと思われる結果が出ている。

表-15 管理主体はどこか (単位 人)

管 理 主 体	林 野 庁	環 境 庁	文 化 庁	青 森 県	関 係 市 町 村
回 答 数	72	20	2	5	2

表-16 保護するための制度 [複数解答] (単位 人)

制 度 名	森林生態系保護地域	自然環境保護地域	世界自然遺産登録地
回 答 数	43	12	66

(7) 現在、白神山地では入林規制を実施しているが、この規制をどのように考えるかを聞いた結果が表17であり、厳しく規制し保護すべきが43%、現状でよいが24%と実に67%が規制を緩めるべきでないとしており、規制を緩め利用すべきの32%を大きく上回る結果となっている。反面少数意見ながら、自然との接触を断絶すべきでないという意見も寄せられている。

入林規制をめぐるいろいろな意見が出されているが、少ない調査数であるが今回のアンケート調査も方向付けの一つとして参考になるものと思われる。

表-17 規制について (単位 人)

設 問	現 状 で よ い	厳 しく 規 制 保 護	規 制 を 緩 め 利 用 す べ き	そ の 他
回 答 数	24	43	29	3

(8) 山地内のゴミ問題に対する住民の考え方、また、自然と調和を図るために必要な環境整備に対する考え方をまとめたものが表18・19であり、複数の回答を求めた。

表18では、ゴミに対するモラルの問題が浮き彫りとなった。「大変きれい」と「大体こんなものだ」を合わせて25%、「ゴミが目立つ」「ひどく目立つ」を合わせれば64%となる。人が見ていないから…、今回だけは…、山の中だから…という安易な考え方が、こういう結果を生んでいる。従ってゴミ散乱防止対策では、モラルの



写-6 天狗岳歩道

向上に期待する意見が強く、71%の人が各人でゴミを持ち帰るよう訴えております。

環境整備については表19のとおりで、42%の人が道路整備を求めている。次いで案内標識の必要性を訴える人が20%、現地案内人を求める意見が8%となっている。

表-18 林道沿いや林内で感じたこと

(単位 人)

林道沿いや林内で感じたこと	回答数	ゴミ対策	回答数
大変きれいだった	4	ゴミを一人ひとりが持ち帰るように啓蒙する	57
道路沿いは大体こんなものだ	15	定期的に掃除する	8
空き缶やゴミが目立つ	40	ごみ箱を設置する	14
空き缶やゴミの散乱がひどく目立つ	9	その他	1
その他	8		
計	76	計	80

表-19 白神山地周辺の施設

(単位 人)

現状で十分である	6	遊歩道・東屋の施設が必要	11
道路の整備が必要	56	宿泊施設が必要	9
案内標識が必要	27	現地案内をするガイドが必要	10
ビジターセンターが必要	11	その他	2

※ その他の意見 1. 開発は避け自然を保存するように 2. 開発を優先しないようにすべき。

5. おわりに

国民全体の注目を浴びることとなった白神山地は、管理方法をめぐりさまざまな意見が出されている。

また、このアンケート調査で67%の方々が、現状の規制維持か、厳しい規制を望んでいるという結果は、今後の管理運営に当たって参考とすべき意見かと思う。

地元鱒ヶ沢町でも「白神ビジターセンター」や「ミニ白神」等の設置計画が進み、今まで以上に白神が熱くなる気配がしている。

国民の自然指向が強まるなか、アンケート調査で明らかになった、入林者のゴミ問題等も地域と一体となって取り組んで解決すべきことと思う。

最後に、鱒ヶ沢警察署・消防署・役場・JR鱒ヶ沢駅その他アンケート調査とこの調査に協力していただいた皆様にこの場を借りてお礼を申し上げ発表を終わる。